

長江区地区防災計画策定に向けて【取り組み概要①】

地区防災計画づくり のための座談会

2015/9/3



区民が主人公である以上、私たちが防災の備えをどう考え、どう実践するか、地震・津波襲来に全員が助かるためにどのように連携してどのように避難するか…そのために全員が集まって防災に対する不安・問題点・対応策等、自由に意見交換を行い、現状及び防災意識の共有化を図る目的で開催した。

主人公は私たち!!

座談会で出された意見

- 全体的なことについて
 - ・計画づくりも大切だが実際に訓練することが重要
 - ・保育園と区で実際に訓練する必要がある
※保育園職員28名、園児118名
- 過去の災害時における情報伝達について
 - ・山へ避難 津波に対する報送は有った
 - ・潮位については市場から連絡があった
 - ・防災無線聞きとれない(何を言っているかわからない)
- 災害時の情報共有のあり方について
 - ・防災(マイク、無線)以外に情報伝達手段はあるのか
 - ・日向市から防災情報の提供はある = 見ていない
 - ・災害後の情報のやりとりも重要
 - ・避難に関してはTV等でも情報提供をしている
 - ・「鐘」について知らせる@南国市
 - ・災害時の情報把握手段
 - ・防災無線 = 聞こえない → 伝言ダイヤルはある
 - ・避難人数(者)をどう把握するか
- 防災・減災意識の向上に向けて
 - ・災害のイメージがつかみにくい = 防災学習会
 - ・例：大震災の際の問題点を教えてほしい
 - ・例：長江区では大雨、地震の時にどうなる？
 - ・災害の時にどのようになるのかを知る必要がある
 - ・避難生活はどうなるのか(移動手段)
 - ・津波後はどうなるのか ⇒ 東北は寒さ対策
 - ・防災意識の向上 = 学習会を開くことが重要
 - ・“避難”は家族の間で十分に話し合っておく必要あり
 - ・自分の命を守るためにどうするかを考える
 - ・津波以外を考えなくてはならないのでは
- 避難行動要支援者対策について
 - ・高齢者の対策も必要
 - ・支援者と要支援者のマッチングは課題
 - ・災害時の要支援者の問題は考える必要あり
 - ・要支援者への対応は避難するだけでなく、その後も含めて検討する必要あり
- 備蓄について
 - ・どこまで備えるか(備蓄等) … お金もかかる
 - ・防災用具は以前に揃えていたが、今はない
 - ・小学校の連携(備蓄を学校へ配備する等)
- 津波避難タワーについて
 - ・避難タワーで670人、避難中は耐えられるのか？
 - ・避難タワーの入口は蹴破り式
 - ・想定外も含めて避難タワーは建設中
 - ・現在の想定(被害)に十分耐えられるように建設
 - ・避難タワー6時間を耐える場所
 - ・避難タワーは部分的囲いがある
 - ・川に向かって避難することへの理解が必要
 - ・タワーにどのように避難するかを考える必要がある
 - ・子どもだけで避難タワーへの避難が出来るようにする
 - ・保育園 = タワーに誘導できる安心感がある
 - ・二次避難場所をどうするかは課題
 - ・三日間の備蓄と15分での避難は難しいのでは。
- その他
 - ・避難勧告で罰則はあるか ⇒ ない
 - ・ハザードマップの作り方(対象)が悪い = 分かりやすく
 - ・市と地域の役割分担の明確化

長江区地区防災計画策定に向けて【取り組み概要②】

津波から子どもの命を守る座談会

2015/10/15

災害時、子どもたちの命をいかにして守るか…各家庭や区の役割を認識する必要がありました。子どもの安全確保・保護者の不安・そしてどんな心構えが必要となるのか、子育て中の保護者を対象に意見交換を行いました。

主人公は私たち!!

座談会で出された意見

- 3.11の際はどのような行動をとったか
 - ・こっちは大丈夫だろうと思っていた。
 - ・夫が会社から異常事態ということで全員に退社命令があり、家に帰ってきた。妊娠していたこともあり、向洋台の姉の家に避難した。みんなが言うほど渋滞はなかった。早いうちに移動（避難）したからかもしれない。夫の会社では避難マニュアル（マップ）等があり、信号にかかった時の避難時間等が記載されている。
- 被災した場合の家族での話をしているか
 - ・バラバラになっている時にどこに避難するのか、どこに行けば家族が集合できるのか等の話をしている。携帯電話が使えなくなることも想定している。
 - ・避難する場合、避難所にいる場合は先生や大人の言うことを聞くように教えている。
 - ・家ではタンス等、家具が倒れないようにしている。
 - ・何日分とははっきり言えないが、災害用備蓄をしている。
 - ・引っ越してきたばかりの時は、地理感がなく、避難場所もわからなかった。
 - ・団地やアパートの4階なので、津波で避難しなければ…という意識があまりない。
 - ・避難タワーが出来るが、川に向かって逃げることに抵抗がある。

- ・津波注意報が出された時、「近づかないでください」と広報で流れる。どれくらいの津波が来るのか、危険の度合い、いつまで近づいたらいけないのかわからなかった。
- その他意見
 - ・子どもだけで家にいることが多い。地震・津波が起きた時に一人で避難できるのか心配。
 - ・津波避難タワーが出来ることでいつでもそこに逃げればいいという安心感はある。
 - ・堤防は大丈夫なのか。⇒「大津波が来る」イコール「堤防の意味・役割」はあまりない。
 - ・津波避難サイレン（Jアラートサイレン）を聞くことがほとんどない。子どもたちに聞いてもらう機会は作れないのか。
- 今後は避難タワーや地区防災計画が出来た以降は何度でも訓練をする必要がある。また、子どもが家に一人である時に避難できるような区の体制も必要である。高齢者の方への避難支援も必要だが、子どもたちや乳幼児のいる家庭への支援も検討しなければならない。そのためには区のコミュニケーションが重要になってくる。日頃からの付き合いが大切とも言える。



育成会保護者の皆さん
小さなお子さんをお持ちの皆さん
長江区防災計画策定委員会から

「津波から子どもの命を守る座談会」

の案内と参加のお願い!

長江区では、避難タワー建設を契機として、これまで長年の懸案だった区としての防災体制の整備も兼ね、必ず「長江区防災計画」の策定作業を進めています。この計画は、大地震・大津波などの災害から長江区民の命を守るための災害発生直後の準備から復旧までの総合計画です。

区では策定委員会を組織して、市やアドバイザーの協力で、真に役立つ計画策定を目指しています。計画のなかで、子どもたちの安全、安心の確保は、重要な課題の一つです。

策定に当たり、子どもを災害から守る準備の皆さんに協力していただき、子どもを守るための準備、相談、対応等、関係者等と連携する機会を設けることにしました。

何かとご多忙な方が多いかもしれませんが、子どもを守るため、ぜひともご参加下さい。

「津波から子どもの命を守る座談会」
10月15日(木)19時30分～於長江公民館

TEL:930-04 長江区防災計画策定委員会 長江区民センター

<長江区広報号外>

長江区地区防災計画策定に向けて【取り組み概要③】

高齢者の安全を考える

防災座談会

2015/10/25

全国的にも、長江区においても高齢化している状況。この状況をふまえ、高齢者として自分自身で、または支援を受け避難することを想定しながら、災害時どのようにして安全を確保するか、迅速に避難するためにはどうすればいいか意見交換を行った。

主人公は私たち!!

高齢者座談会まとめ

主要なテーマは要援護者の支援、助け合いの仕組みをどう作るか。高齢者でも自力で避難できる人はいる。では自力で避難出来ない人をどう支えるか…

- ①高齢者が高齢者を助けるのは困難。高齢者が互いに助け合うという仕組みは作るべきではない。
- ②若い人に対して、誰かを助けるのを義務として課すような仕組みも現実的ではなく、過酷すぎるのでやめるべき。…②の意見には参加者のほとんどが納得。強制しないゆるやかな相互支援のあり方を考えられないか？

○具体的な行動案

- ・外の人に避難したことがわかるように色つきのタオルを玄関先にぶら下げておく。もし、時間的余裕があり、タオルがぶら下がっていない高齢者家庭を見つけた場合は声かけをする。声かけの強制はしない。各人の判断に任せる…あくまでも余裕があればという「ゆるやかな支援」。
- ・区は近隣の家庭の状況、独居か避難困難者なのかという最低限の情報を把握するために「防災カード」を作成する。これは、防災を目的に緊急時の対応以外には使用しない。先進地区の調査をする必要がある。



長江区報緊急号外 避難タワー建設契機に 力を合わせて、災害を生き延びる長江区めざして! 長江区報第1310号

9日・「避難タワー 建設工事 説明会」

10月9日(金)19時～20時・於公民館(主催・日向市防災推進課)
いよいよ避難タワーの建設工事が始まります。工事開始前に、市による工事内容説明会が開催されます。説明会では工事の工程、安全対策など工事の概要、避難、防災センター等、詳しい説明が受けられます。是非工事準備補助予定です。どなたでも参加できます。ぜひ、おいで下さい。
(※工事準備費は「長江・避難施設工事共同事業体」(9月17日の札付で決定。))

25日・「高齢者の安全を考える 防災座談会」

10月25日(日)10時～11時半・於公民館(主催・長江区・防災計画策定委員会)
区では、長江区地区防災計画の策定に向け、取り組みを進めています。先月3日には全区民対象の座談会を行い、1日目は子育て世代の参加者が集まりました。2日目は、災害時における、高齢者に対する支援、避難の難しさなどについて、地域・行政、避難など大災害に備えて区の課題についてご意見を伺うことになりました。いざという時に立つ計画にするために、ぜひとも高齢者の方をお招き下さい。(若年層の方の参加も可能です。)
※議題、避難タワーに助けを借りて、自宅から公民館までの避難経路を計って見て下さい。水事補助の額等は11月です。

<長江区広報号外>

長江区地区防災計画策定に向けて【取り組み概要④】

「自助」を考える！ 長江区防災講演会

2015/11/27

防災計画を策定するにあたり、防災の基本中の基本と言われる「自助」の大切さを認識しなければ、「共助」にもつながらない…という考え方から、専門の講師を招き、全区民を対象に防災講演会を開催した。

主人公は私たち!!

座談会で出された意見

アドバイザーの川脇さんより、津波避難における「自助」「共助」東北の教訓に学ぶと題し、パワーポイントと併せ、「津波いろは歌留多」を資料として講演を行った。これまでの巨大地震として、東日本大震災（津波）、阪神淡路大震災（倒壊）、関東大震災（火災）、それぞれの巨大地震において被災内容が違っている事を説明された。津波避難において、自助の考え方として「津波てんでんこ」を取り上げて、「てんでんこ」の内容解説と意味、これまでの津波災害の歴史を交えて説明が行われた。

【自助として】

- ・自主的に率先して避難することの重要性
- ・津波災害が起きることを想定して、家庭で平常時にそれぞれが避難する場所などを日頃から話し合いをすることで確認し、いざ災害が起こった際には家族の皆が自主的に避難を行えるようにすること
- ・東日本大震災での被災者アンケートから見た、津波避難行動時にどのような事があったのか
- ・「てんでんこ」を伝える方の気持ち（自責感の軽減）

【共助として】

- ・災害弱者や要援護者支援についての問題
- ・「こすばる老人」の問題
- ・安否札等の避難時の連絡体制
- ・大津波警報時の消防団の活動内容の違い

講演会の中では、津波災害を受けて家族を失った方や被災を目のあたりにされた方の自責感について、気付かされるところも多くあった。その後、「津波いろは歌留多」より、いくつか抜粋して津波に対しての心構えや避難について解説を行い、最後に区民から質問を受けた。

- ◎これまでの避難訓練時に橋を渡り、区の川向かいの山へと行っていたが巨大地震の際には橋は渡れないのではないか。⇒津波により川を遡上するため、橋を渡らないことを基本として、川から離れることが必要です。今後、津波避難タワー完成後はタワーへの避難をお願いしたい。
- ◎災害避難時にラジオ・水などの備蓄品を持って逃げられるのか、訓練を重ねて持って逃げることになるのか。⇒東日本大震災時には逃げるための時間があり、備蓄品を持って逃げる余裕があったと思われるが、逃げる余裕がない場合は何も持たずに逃げなければならない。緊急持ち出し用として0次（身分証明証等が入った簡易バック）・1次（持ち出し袋：飲料水・携帯・使い捨てカイロ等）として保管しておかなければならない。

今後、地区防災計画を作るにあたり、アンケート等を行っていくことを説明し講演会を終了した。

長江区報号外 避難タワー設置を機に力を合わせて、大災害を生き延びる長江区めざして!

「自助」を考える! 「長江区・防災講演会」 27日(金)19時 於公民館

避難タワー建設が急ピッチで進んでいます。区では、タワー設置を機に、新編「長江区防災計画」の策定を進めています。今回、その一環として、防災の基本中の基本と言われる「自助」の大切さを確認しようとする専門家を招いて講演会を開催することにしました。講師は、区の防災計画策定アドバイザーで、公益財団法人防災エクスチェンジャー事務局、兵庫県職員でもある川脇雅生さんです。川脇さんは「長江区防災計画策定」の委員で、阪神淡路大震災の被災経験もあり、また東日本大震災における助け合いの実験等についても研究報告を行っています。区が10月に開いた座談会にもアドバイザーとして参加していただきました。多くの皆さんの参加をお願いします。

11月27日(金)午後7時～8時半(主催:長江区・防災計画策定委員会)

<長江区広報号外>

講演資料の一部

他者避難の促進

「人類にとって最大の災害情報は人間だから、もう逃げている人(大津波警報)がないという状況が重要だ」と川脇さん

釜石の奇跡

津波避難の3原則

1. 助定を信じる
2. 最善を尽くす
3. 率先避難者たれ

こすばる老人

災害発生時に「こすばる老人」は避難しにくいという課題が指摘され、防災対策として、避難支援の仕組みづくりが求められている。こすばる老人とは、災害発生時に避難しにくいという課題が指摘され、防災対策として、避難支援の仕組みづくりが求められている。

